

## 令和5年度 学校運営連絡協議会実施報告書

### 1 組織

- (1) 都立片倉高等学校学校運営連絡協議会（全日制課程）
- (2) 事務局の構成 主任教諭(総務主任兼務)=事務局長、教務部員3名 計4名
- (3) 内部委員の構成  
校長、副校長、経営企画室長、主幹教諭(教務担当・造形美術コース担当)、生活指導主任、進路指導主任、保健主任 計8名
- (4) 協議委員の構成（氏名の掲載も可）  
忠政 重信（多摩美術大学事務部長） 出張 吉訓（東京女子体育大学 教授）  
黒川 弘章（東京工科大学 学生部長） 藤塚 康子（八王子市立中山中学校長）  
井村 良英（育て上げネット職員） 井出 勲（八王子市社会福祉協議会市民力支援課課長）  
森 洋人（片倉自治会長） 林 千文（本校PTA代表）  
計8名

### 2 令和5年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会（第1～4回）の開催日時、出席者、内容、その他  
第1回 令和5年6月30日（金）内部委員8名、協議委員7名  
協議委員委嘱、委員紹介、評価委員選出、学校経営計画、昨年度学校経営報告と本年度学校経営計画の説明、6月末までの各分掌の活動報告、意見交換  
第2回 令和5年12月1日（金）内部委員8名、協議委員6名  
11月末までの各分掌の活動報告、学校評価アンケートの項目・方法の検討、学校経営・運営に係わる質疑応答、意見交換  
第3回 令和6年3月1日（金）内部委員8名、協議委員8名  
本校教育活動の報告 学校評価アンケート結果報告及び質疑応答  
学校経営・運営に係る質疑応答・意見交換
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他  
第1回 令和5年12月1日（金）内部委員3名、協議委員2名  
今年度学校評価の観点・項目の検討・実施時期・方法・対象範囲の検討  
第2回 令和6年3月1日（金）内部委員3名、協議委員2名  
学校評価アンケート結果の分析・考察、課題の整理、評価報告書の検討

### 3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点  
「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
  - ・12月 全校生徒 対象：878人 回収：711人 回収率：81%
  - ・12月 保護者全員 対象：878人 回収：80人 回収率：9%
  - ・12月 地域・住民 対象：20人 回収：10人 回収率：50%
  - ・12月 教職員 対象：50人 回収：30人 回収率：60%
- (3) 評価項目と選択肢

生徒、保護者、教員と学校運営連絡協議会委員へは、「学校生活への満足感」「学校の特色理解」「教員の協働」「授業の工夫（わかりやすい授業）」「授業内容や進度」「進路指導」「教育課程（多様な選択科目）」「生活指導」「健康指導」「防災指導」「ライフワークバランスの推進」の項目で実施した。

#### (4) 評価結果の概要

これまでも好意的回答が多かったが、今年度も多くの項目でポイントが増えた。保護者の回答では、適性や希望を活かした進路指導について、授業内容や授業進度について昨年度よりも上昇したが、如何せん回収率が悪すぎて参考とは言えない。「学校生活の満足度」生徒90%、保護者90%となり、昨年とほぼ同じである。学習指導における生徒の好意的回答は、「分かり易い授業の工夫」9割を超え昨年度より上昇した。

#### (5) 評価結果の分析・考察

「生徒による授業評価」によると、すべての教科で好意的回答が8割を超えており評価された。教員は9割以上がわかりやすい授業のための工夫に取り組んでいる。そのことがこの結果に表れていると考えられる。今後も授業力向上の取組をさらに継続していく。

生徒の家庭学習の状況によると、課題には取り組むが自主的に予習・復習に取り組む姿勢は昨年同様まだまだ低い現状である。今後の動機づけが課題である。

教員、特に保護者からの回収率が良くなかったことが反省点である。早急に回収の方法を検討する必要がある。

### 4 学校運営連絡協議会の成果と課題

#### (1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

生徒の授業についてのアンケート結果から、授業改善に向けた校内研修の実施、充実が必要であることが明確となった。

#### (2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

アンケートの回収率増加に向けて検討する必要がある。コロナ禍が明け、日常の生活に戻す中で、学校での行事・生活習慣等、今の生徒の実態に合った計画を立てる必要がある。生徒の成長のためには学校の力だけでなく、地域社会と連携し社会福祉団体等の協力を得ながら、問題解決を図っていく必要がある。

### 5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

#### (1) 学校運営

保護者との連携を強化し、学校の教育方針に理解と協力を得る。

満足度を向上させるため、コロナ禍前の学校行事や部活動を復活させて活性化する。

#### (2) 学習指導

更なるICTやオンラインを活用した授業を奨励し、わかりやすい授業を行う。

若手を中心とした研究授業などで相互授業参観を実施し、授業力向上を図る。

英検の受験人数を増加させる。

学習習慣を身につけるための補習や課題を与えて家庭学習を促し、基礎学力の定着を図る。

図書館をさらに活用できるよう授業等で工夫する。

#### (3) 生活指導

基本的な生活習慣を身につけるため、教職員全体が共通理解のもと、同じ基準で指導していく。

SNSの利用方法や盗難防止について、いじめ等のトラブルや犯罪に巻き込まれないよう指導する。

#### (4) 進路指導

3年間を見通して、少しでも早く進路に取り組みせ、希望進路の実現を図る。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 8人

そう思う	多少そう 思う	どちらとも 言えない	あまりそう 思わない	そう思わ ない	分からない	無回答
5	2	0	0	0	1	0

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 企画調整会議 0回

8 その他

保護者のアンケート回収率を更に高めるため、回収方法を含め検討の必要がある。  
アンケートに自由意見を入れる必要がある。